

# Salon

Vol.144 2023年5月 新緑号



ホール4F壁画 ポール・ゴッアマン作「チューリップ」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — フォルクハルト・シュトイデ  
03 Phoenix Presents — Osaka Guitar Summer 2023  
ミニマル音楽の行方へスティーヴ・ライヒ&アンディ・アキホ〜  
ひばり弦楽四重奏団  
06 Pick Up  
07 Essay de say — B→C(ビートゥーシー|バッハからコンテンポラリーへ)の魅力



# ウィーン・フィルの名手による待望のリサイタル フォルクハルト・シュトイデさん



当ホールで2021年に予定されていたフォルクハルト・シュトイデ(ヴァイオリン)と三輪郁(ピアノ)によるリサイタルは、コロナ禍の影響で残念ながら中止となったが、そのお二人がようやく大阪に戻ってくる!名門ウィーン・フィルおよびウィーン国立歌劇場管弦楽団のコンサートマスターとしてすっかりおなじみのシュトイデだが、そのかたわらで室内楽やソロ活動にも力を入れてきた。長年デュオ・パートナーとして関係を築いてきた三輪郁とさらに深みを増したアンサンブルを聴かせてくれることだろう。今回のプログラムで取り上げるブラームスのヴァイオリンソナタ 第2番やプロコフィエフの「ロメオとジュリエット」への思い入れや、コロナ禍を経て現在の活動についてうかがった。(後藤菜穂子 音楽ライター)

## フォルクハルト・シュトイデ (Volkhard STEUDE/ヴァイオリン)

1971年ライプツィヒ生まれ。ベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学にてヨアヒム・シュルツとヴェルナー・シュルツ教授の下で学ぶ。1993年グスタフ・マーラー・ユングストオーケストラのコンサートマスターに就任。1994年ベルリンの大学でディプロム取得の後、ウィーンに移り、アルフレート・シュタール教授の下で更に研鑽を積む。1994年11月ウィーン国立歌劇場管弦楽団のコンサートマスターに就任。更に2000年からはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターを務めている。日本にはトヨタ自動車主催による「トヨタ・マスター・プレイヤーズ・ウィーン」のコンサートマスターとしても度々来日しており、多くのファンを獲得している。室内楽にも熱心に取り組んでおり、2002年からはウィーン・フィルのメンバーで構成される室内楽アンサンブル、ウィーン・ヴィルトゥオーゼンのコンサートマスターも務めた。また同じく2002年にシュトイデ弦楽四重奏団が結成され、ウィーン楽友協会が定期演奏会を開催するほか、ヨーロッパ内及び日本で度々ツアーを行うなど、その活動は非常に注目を集めた。使用楽器は1718年製のアントニウス・ストラディヴァリウスで、オーストリア国立銀行より貸与されている。2016年4月広島交響楽団よりミュージック・パートナーの称号を授与された。

# “みなさんの心に届くような 感情豊かな演奏ができれば”

大阪はこれまで何度も訪れていらっしゃいますが、シュトイデさんにとってどんな街ですか？

大阪でのリサイタルはパンデミック以来、初めてになります。これまで大阪にはリサイタルのみならず、ウィーン・フィルともトヨタ・マスター・プレイヤーズともたびたび訪れておりますが、たくさん魅力をもった大好きな街です。北よりも南の地域の人々のほうが和やかで笑顔が多く、真面目すぎず、よりオープンな傾向にあるのは日本だけではなく、ヨーロッパや米国でもそうですね。南の人々の明るさといえるでしょう。

長年日本を訪れていますが、土地ごとの人々の暮らしや振る舞いの違いを観察することはひそかな楽しみです。地域によってさまざまな差があります。そしてそれは音楽家にとっても言えることだと思います。私が所属するウィーン・フィルも独自のアイデンティティを持っていますし、各地のオーケストラがそれぞれのアイデンティティを持っていることはとても素晴らしいことです。

パンデミックを経て、ヨーロッパの音楽状況はいかがでしょう？

パンデミックは私たちの生活に大きな爪痕を残したと思います。このあいだウィーン・フィルの演奏旅行でアメリカに行きましたが、都市部では貧困層が増えていて、生活がより困難になっているのを目の当たりにしました。ウィーンでは、オペラ座でも楽友協会でもほぼ通常通りの活動に戻っていますが、他の地域ではまだコロナ以前の状態に戻っていないところもありますし、観客数が戻っていないところもあります。もうすこし時間がかかるかもしれません。

音楽家としては、私たちの演奏が聴衆の心にすこしでも癒しを与えることができ、またほんのいとこでも悩みや心配事を忘れる機会になればと心から願っています。ロックダウンや無観客での配信などを経て、再び演奏できるようになったときに何よりも嬉しかったのは観客のみなさんの笑顔を見ることでした。この苦難の日々を体験した世代の音楽家たちは、以前に増して、音楽を楽しむ聴衆の姿に感謝の思いを抱いているのではないのでしょうか。

ウィーン・フィルのコンサートマスターとして演奏するときと、ソリストとして演奏するときと心構えに違いはありますか？

私にとっては、ウィーン・フィルで弾くのもソリス

トとして弾くのもそれほど大きな違いはありません。ウィーン・フィルは敬愛すべき音楽家たちが集まったきわめて柔軟なアンサンブルであり、枠にはめられるようなことはないのです。私たちがオペラ座のピットで演奏するときには、舞台上で起こっていること、歌手が歌っていることの良きパートナーでなければなりませんからね。それと同じく、ヴァイオリンとピアノのデュオの場合も、私たちはつねに対等なパートナーであり、ヴァイオリンにピアノがついていくわけでは決してありません。実際、ベートーヴェンやブラームスの楽譜を見れば、「ヴァイオリン付きのピアノ・ソナタ」と書いてあるように、むしろピアノ・パートのほうが重要なくらいです。

もちろん、練習ではお互いにどう演奏したいか話し合い、準備しますが、でも実際のコンサートではふっとインスピレーションが湧く、とても美しい瞬間が訪れることがあります。それは決して事前に相談したり、計画したりしてできることではありません。なぜなら、それは相手の演奏に瞬時に反応して起こることだからです。そして、こうしたことはまさに私たちがウィーン・フィルでもやっていることなのです。

今回のリサイタルの選曲についてお話しいただけますか。

今回のプログラムでは、私が心から愛する曲たちを選びました。ふだんオーケストラでの活動がメインで、リサイタルを行う機会はそれほど多くないため、特定のテーマとか国とか関係なく、思い入れの強い曲を取り上げたいのです。

ブラームスのヴァイオリンソナタ 第2番を選んだのは、他の2つのソナタにくらべて過小評価されていると思うからです。三輪郁さんとはこれまで3曲とも弾いてきましたが、第2番を弾いた回数はいちばん少ないと思います。私にとってこの曲の平穏で明朗な雰囲気は、ブラームスにもそういった面があることを思い出させてくれるものです。どうしてもブラームスというと、重厚さやドラマ性、悲哀のまぎった美しさが強調されがちですが、この曲は彼の作品の中では比較的ポジティブなものだと感じます。音楽について言葉で説明するのはとても難しいのですが、このソナタを演奏するときは、私の頭の中にはさまざまなイメージや風景が浮かびます。

一方、プロコフィエフのバレエ音楽「ロメオとジュリエット」を取り上げることにした理由は、現在のウィーン国立歌劇場の体制の下では、このバレエが上演されることがなくなり、劇場で演奏で

きないことをとても寂しく思っているからです。現バレエ監督は、新しい振付にはとても熱心なのですが、古典的なバレエ作品にはさほど興味がなく、この名曲を演奏する機会がなくなってしまったのです。そこで今回、ヴァイオリンとピアノで演奏してみようと思いついたのです。プロコフィエフの力強い音楽をどうぞお楽しみください。

三輪郁さんとは長年パートナーシップを組んでいらっしゃいますね。

三輪さんとは2000年以来、デュオとして演奏してきました。私たちは音楽的に同じ言語を共有しているので、いちいち言葉で説明しなくてもお互いに何をしたいのか分かり合えるのです。それは、いわば話すことと演奏することのあいだのゾーンで通じ合っているからなのです。そこが音楽のすばらしさであり、たとえばオペラ座で演奏しているときも、歌手に耳を傾け、彼らが何をしたいかを察知して彼らに合わせる事ができたときに音楽家として強い充足感を感じます。それはピアノとのデュオでも同じことなのです。

最後にファンの皆さんにメッセージをお願いします。

日本で演奏することはいつも私にとって大きな喜びです。とくに日本の聴衆のみなさんからは、「今日の演奏はいったい何をもたらしてくれるのだろう」という強い期待を感じますね。演奏家としては、みなさんの心に届くような感情豊かな演奏ができればと思います。ぜひザ・フェニックスホールでお会いしましょう。

## 注目アーティストシリーズ83 フォルクハルト・シュトイデ ヴァイオリンリサイタル

2023年6月10日(土) 15:00開演 指定席  
一般4,500円 友の会会員4,050円  
学生(25歳以下)1,500円

■出演  
フォルクハルト・シュトイデ(ヴァイオリン)  
三輪郁(ピアノ)

■曲目  
モーツァルト:ヴァイオリンソナタ 二長調 K306  
ブラームス:ヴァイオリンソナタ 第2番 長調 op.100  
チャイコフスキー:懐かしい土地の思い出 op.42  
プロコフィエフ:「ロメオとジュリエット」op.64 より  
(構成:フォルクハルト・シュトイデ)

■チケットのお求め・お問い合わせ  
ザ・フェニックスホールチケットセンター  
06-6363-7999(平日10:00~17:00 土日祝休)



# Osaka Guitar Summer 2023

ザ・フェニックスホールがお届けする真夏のギター祭典・大阪ギターサマー。福田進一&荘村清志の演奏会をメインに据え、関西実力派ギタリストによるアンサンブル、若きギタリストの公開マスタークラスや愛好者によるギターアンサンブルの演奏を披露するなどクラシックギターの魅力を満喫できる内容をお届けします。今年は、スペシャルゲストとして福田&荘村公演に押尾コータローさんが参加。益々楽しみな2日間です。



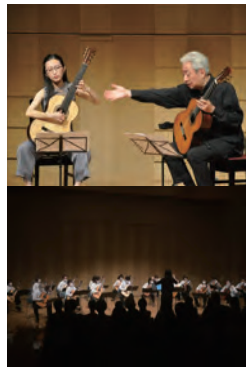
**2日間セット券 一般 6,500円 友の会会員 6,000円** ※2日間セット券・学生券は当ホールチケットセンターのみのお取り扱い  
※1公演毎のご購入も可能です。  
(お一人様2枚まで)

スケジュール	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00		
8月26日(土)		開場	マスタークラス①	休憩	マスタークラス②	休憩	マスタークラス③	休憩	修了コンサート
8月27日(日)		開場	ギター・ア・ラ・カルト			開場	福田進一& 荘村清志 ジョイントリサイタル		

※1日通し券で「公開マスタークラス」「修了コンサート」の両方をご鑑賞いただけます。マスタークラス終了後の入れ替えはありません。  
※休憩はありません。  
※途中で20分休憩があります。

## 第1日 8月26日(土)

### 公開マスタークラス聴講 & 修了コンサート



#### ■ 公開マスタークラス聴講 13:00開始 自由席

プロを目指すギタリストのレッスンを聴講いただけます。

- ①13:00~ 講師:福田進一 受講生:福山日陽 受講曲 レゴネディ:序奏とカプリス op.23
- ②14:15~ 講師:荘村清志 受講生:山田真菜 受講曲 リョベート:ソルの主題による変奏曲
- ③15:30~ 講師:福田進一 受講生:前田遥香 受講曲 テDESCO:タランテラ

#### ■ 修了コンサート 17:00開演 自由席

公開マスタークラス受講生とギターアンサンブルワークショップ受講生が、レッスンの成果を披露します。

出演 公開マスタークラス受講生、アンサンブルワークショップ受講生  
曲目 公開マスタークラス受講曲、グリーグ:ペールギュント 第1組曲 op.46 ほか

協賛:株式会社 現代ギター社

1日通し券 ¥500

※友の会割引はありません。  
※1枚のチケットで「公開マスタークラス聴講」「修了コンサート」の両方をご鑑賞いただけます。なお、公開マスタークラス終了後の入れ替えはありません。

## 第2日 8月27日(日)

### ギター・ア・ラ・カルト 13:00開演 指定席

クラシックギターならではの魅力をアンサンブルでお届けします!

出演 岩崎慎一、益田展行、猪居謙、猪居亜美(以上ギター)

曲目 ロッシーニ(ジュリアーニ編):「セビリアの理髪師」より序曲(益田&謙) ドビュッシー:亜麻色の髪の乙女(謙&亜美)  
ペリナティ:Jongo(亜美&岩崎) ラヴェル(フホル編):亡き王女のためのパヴァーヌ(岩崎&益田)  
チャイコフスキー(ヨーク編):組曲「くるみ割り人形」より抜粋(四重奏版)

入場料¥2,500 友の会会員¥2,250 学生(25歳以下)¥1,000



### Kansai Soloists & Ensembles 27 <福田進一と仲間たちvol.12> 福田進一&荘村清志 ジョイントリサイタル 16:00開演 指定席

日本のギター界を牽引してきたレジェンド2人で綴る珠玉のデュオ!  
ゲストに押尾さんを迎え、フィナーレは3人で「ボレロ」!

出演 福田進一、荘村清志(以上ギター) スペシャルゲスト:押尾コータロー(ギター)

曲目 ■ソロ 福田進一 アルベニス(ウィリアムス編):スペインの歌 op.232より「コルドバ」  
■ソロ 荘村清志 グラナドス(荘村清志編):「昔風のスペインの歌曲集」より 第7番「ゴヤの美女」  
■デュオ 荘村&福田 カカルリ:ラルゴとロンド 第2番(対話風小二重奏曲 op.34 より)  
押尾コータロー:新作(Hakuju Guitar フェスタ 2023委嘱作品)  
■トリオ 荘村&福田&押尾 ラヴェル(押尾コータロー編):ボレロ ほか



入場料¥4,000 友の会会員¥3,600 学生(25歳以下)¥1,000



ザ・フェニックスホール  
友の会優先予約

5月19日(金)  
10:00 受付開始

イー・フェニックス  
E-PHX優先予約

5月22日(月)  
10:00 受付開始

一般発売  
5月23日(火)  
10:00

インターネット予約による  
お申込みは5月24日(水)10:00から!

### ■アンサンブル・ア・ラ・カルト66

2023年  
10月28日(土)

15:00開演 指定席  
一般¥3,500(友の会会員¥3,150)  
学生(25歳以下)¥1,000

## 4人のパーカッションが繰り広げるミニマル&ポスト・ミニマルの音世界 ミニマル音楽の行方 〜スティーヴ・ライヒ&アンディ・アキホ〜

出演 パーカッション・パフォーマンス ビートジャック(池田安友子、内山光知子、高鍋歩、安永早絵子)

曲目 スティーヴ・ライヒ: Music for Pieces of Wood スティーヴ・ライヒ: Drumming-Part 1 スティーヴ・ライヒ: Mallet Quartet  
池田安友子:アイマイ  
アンディ・アキホ: Pillar I アンディ・アキホ: Pillar VII

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでは、これまでに「オール・ライヒ・コンサート」、フィリップ・グラス「浜辺のインシュタイン」等、ミニマル音楽を積極的に取り上げてきました。その第3弾となるのが本コンサートであり、今回はパーカッション・アンサンブル曲をテーマにプログラムしました。まずはスティーヴ・ライヒの「Drumming-Part. 1 (1970-71)」。ライヒ初期の代表的な手法であるフェイズシフティングを使用して書かれた作品。フェイズシフティングとは同じ音型を繰り返しながら少しずつ音をずらして演奏する演奏法であり「ドラミング」はその集大成的作品です。4人が音を徐々にずらすという超絶なテクニックを堪能してください。「Mallet Quartet (2009)」はピューリッツァ賞を受賞した「Double Sextet (2007)」の流れをくむ非常に美しく構築された作品。ライヒ音楽の真髄をお楽しみください。

そして今回最も紹介したいのがアンディ・アキホの「Pillar I, VII (2021)」です。アンディ・アキホは2022年、2023年のグラミー賞 現代クラシック作曲部門に2年連続でノミネートされた注目の作曲家。ピラーは7曲からなる組曲で、空き瓶や鉄の棒などの廃材と、マリンバやグロックンなどの打楽器を組み合わせた独特の編成で作られた繊細で緻密な作品です。スティール・パン奏者でもあるアンディ・アキホが生み出すこれまでにないユニークでシャープな音世界を体験してください。

演奏は関西を拠点に活動するパーカッション・パフォーマンス「ビートジャック」。鉄壁の打楽器アンサンブルを武器に、様々な楽器を駆使したエンターテインメント溢れるステージングが特徴のグループです。プログラムにはミニマル音楽をテーマにした彼らのオリジナル曲も組み込まれており、ミニマルからポスト・ミニマルまで様々な様相の楽曲を楽しんで頂けると幸いです。また今回は事前録音データやPAなど音響設備を一切使用しない、完全アコースティックによる演奏となります。ライブならではの緊張感溢れる演奏を是非とも体験してください。お待ちしております。

(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 宮地泰史)



## ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申し込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

<https://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申込みください

直接のご来店による  
お申込み

- ザ・フェニックスホール友の会優先予約  
・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。  
・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。  
・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

- E-PHX(イー・フェニックス)優先予約  
・E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。  
・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。  
・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。

- 一般発売  
・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。  
・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

- インターネット予約(主催公演のみ)  
・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。  
・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますが電話でお問合せください。  
・ホームページ更新の都合により、売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。  
・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしていません。  
・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

### チケットお申込み後のお受け渡し方法

電話予約後に郵便振込をしていただき、入金確認後にチケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はおお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エレベーターを降りて廊下右手です。





■共同主催 アーツ・フロンティアーズ/あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

2023年  
10月7日(土)

15:00開演 指定席  
一般¥4,000(友の会会員¥3,600)  
学生(25歳以下)¥2,000

研ぎ澄まされたアンサンブルが織りなす極上の音世界  
ひばり弦楽四重奏団

出演 漆原啓子、漆原朝子(以上ヴァイオリン)、大島亮(ヴィオラ)、辻本玲(チェロ)  
曲目 メンデルスゾーン:弦楽四重奏曲 第2番 イ短調 op.13  
シュルホフ:弦楽四重奏曲 第1番  
ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第14番 嬰ハ短調 op.131

昨年のティータイムコンサートで初登場し、大好評を得た“ひばり弦楽四重奏団”。漆原姉妹の美しく合奏するヴァイオリンと日本屈指のトッププレイヤーが中低域をがっしりと支える、まさに黄金比を音楽で体現するかのような素晴らしいクアルテットです。そんな彼らは時間をかけてじっくりとベートーヴェン弦楽四重奏曲の全曲演奏に取り組んでいるのですが、今回取り上げるのが後期屈指の名曲第14番です。そしてそれに合わせるのにはベートーヴェンの後期作品を誰よりも高く評価し、その影響を受けた若きメンデルスゾーンが書いた第2番。ロマン派音楽の萌芽から発展を感じられる重要な2作品です。是非聞き比べてみてください。そしてもう1曲シュルホフの作品ですが、彼は20世紀初頭にジャズの要素をいち早く取り入れた作曲家でもあり、弦楽四重奏曲第1番は非常に明快で小気味良い作品です。お楽しみに。



ティエンチ・ドウ ピアノ・リサイタル《ゴルトベルク変奏曲》公演に寄せて



昨秋仏ナイーブ・レーベルより《ゴルトベルク変奏曲》でCDデビューを飾ったティエンチ・ドウがザ・フェニックスホールに初登場します。様々な偶然に導かれ《ゴルトベルク変奏曲》を演奏するようになったというドウ。時代を超越するバッハの魅力に最大限の敬意を表しつつ、現代に生きるピアニストならではの表現を探索したいと語っています。その言葉通り美しい音色やレガート、完璧にコントロールされたデュナーミクなどピアノという楽器のもつ可能性を最大限に引き出したその演奏は、「想像力に富んだフレーズと魅力的な装飾音(グラモフォン誌)」、「ただただ美しいその演奏に幾度となく心を奪われる」(MusicWeb International)と絶賛されています。ピアノだけでなく作曲、写真、ビデオ・アートと様々な芸術形態に取り組み、最近ではバッハの弾き振りにも取り組み始めたというドウ。今後その才能がどのように花開いてゆくか目の離せない注目の若手ピアニストです。数々の名演が残されている《ゴルトベルク変奏曲》に新たな息吹を吹き込むドウの演奏を301席の贅沢な空間で是非お楽しみ下さい。

■公演情報 ティエンチ・ドウ ピアノ・リサイタル《ゴルトベルク変奏曲》  
2023年6月28日(水) 14:00開演 指定席 一般3,500円 友の会会員3,150円 学生(25歳以下)1,000円  
曲目 J.S.バッハ:ゴルトベルク変奏曲 BWV988 (休憩なし・演奏時間約90分)

CSV DX 地域の皆さまとともに。 あいおいニッセイ同和損保 MS&AD INSURANCE GROUP  
あいおいニッセイ同和損害保険 〒150-8488 東京都渋谷区恵比寿 1-28-1

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛・協力公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 関西二期会サロンオペラ第20回公演「ジュリオ・チェーザレ」 主催 公益社団法人関西二期会  
2023年5月16日(火)・17日(水) 19:00開演 自由席 前売・当日¥3,500(友の会会員¥3,150)

出演 指揮:袖岡浩平 ステージング:奥野浩子 ピアノ演奏:前川裕介 公演監督:斉藤言子  
5/16:影原真由美、田村香絵子、名島嘉津栄、片桐直樹、山本伸子、上野緑、山咲響、椛本かおる  
5/17:味岡真紀子、四方典子、岸畑真由子、萩原寛明、瀬戸口文乃、高木華奈、萬田一樹、森原明日香  
曲目 ヘンデル:歌劇「ジュリオ・チェーザレ」(全3幕・イタリア語上演・字幕付)



協賛公演 徳永兄弟 NEO FLAMENCOII 主催 日本コロムビア株式会社  
2023年6月30日(金) 19:00開演 指定席 前売・当日¥5,500(友の会会員¥5,000)

出演 徳永健太郎、徳永康次郎(以上フラメンコギター)、ラファエル・モイセ・エレディア(パーカッション)、中原潤、鈴木時丹(以上パルマ、ダンス)  
曲目 ビゼー(徳永健太郎、徳永康次郎編):カルメン・フラメンコ・ファンタジー  
ファリャ:火祭りの踊り  
ピアソラ:リベルタンゴ ほか



協賛公演 “KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”~関西圏の最大拠点 梅田で展開する芸術音楽~ 主催 コジマ・コンサートマネジメント  
伊藤恵ピアノ・リサイタル 2023 2023年7月7日(金) 19:00開演 指定席 前売・当日¥5,000(友の会会員¥4,500) ※友の会割引は前売のみ

出演 伊藤恵(ピアノ)  
曲目 J.S.バッハ:イタリア協奏曲 BWV971  
J.S.バッハ(ブゾーニ編):コラール前奏曲「われ汝に呼ばわる、主イエスキリストよ」 BWV639  
シュベルト:4つの即興曲 op.90 D899  
ベートーヴェン:ピアノソナタ 第23番 へ短調「熱情」 op.57  
ベートーヴェン:ピアノソナタ 第26番 変ホ長調「告别」 op.81a

超難関ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ部門で日本人唯一の第一位受賞者(1983年)。サヴァリッシュ、フルネ、朝比奈など往年の巨匠たちと数多くの共演でも知られる名ピアニスト・伊藤恵の珠玉の演奏をどうぞお聴きください。



協賛公演 ハイブリッド・トロンボーン四重奏団結成20周年・Sun Bones Trombone Trio 結成10周年記念特別コンサート「Slide Anniversary」 主催 ハイブリッド・トロンボーン四重奏団/Sun Bones Trombone Trio  
2023年7月18日(火) 19:00開演 自由席 一般前売¥4,000(友の会会員¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会会員¥4,050) 学生前売¥2,500 学生当日¥3,000

出演 ハイブリッド・トロンボーン四重奏団:呉信一、岡本哲、新田幹男、小西元司  
Sun Bones Trombone Trio:武内紗和子、岡村哲朗、石井徹哉(以上トロンボーン)  
曲目 P.デュカス:「ラ・ベリ」の前奏用ファンファーレ  
R.ワーグナー:エルザの大聖堂への行進  
A.リード:エル・カミノ・レアル

唯一無二のサウンドを持つ結成20周年のハイブリッド・トロンボーン四重奏団と、結成10周年を迎え“さんぼんトリオ”の愛称とともに三重奏の可能性を開拓し続けている両団体による夢の7重奏コンサート!



協力公演 秘められた怖さを知れば暑さも吹っ飛ばす「納涼コンサート」~始まりは恐怖だった~ Vol.2 主催 NPO法人関西音楽人クラブ  
2023年7月9日(日) 15:00開演 自由席 前売¥3,500(友の会会員¥3,150) 当日¥4,000(友の会会員¥3,600)

出演 プロデュース:ピアノ:小川友子  
坂口さやか、本田秀美(以上ソプラノ)、竹村美和子、荻野由里可(以上ピアノ)、山本みなみ(ヴァイオリン) ほか  
曲目 プーランク:「ルイ・アラゴンの2つの詩」より「C(セー)」、歌の調べ マスカーニ:アヴェ・マリア  
スクリャーピン:ピアノソナタ 第9番「黒ミサ」 ストラヴィンスキー:イタリア組曲より ほか

協力公演 サマーミュージックフェスティバル大阪2023 in ザ・フェニックスホール 主催 大阪アーティスト協会  
2023年7月30日(日) 17:00開演 自由席 一般前売・当日¥4,000(友の会会員¥3,600) 学生(小・中・高生)前売・当日¥2,000

出演 構成監修:小味洸彦  
原真奈美、遠藤真枝、栗林萌華、土井麻里愛、奥田妃奈、松本昌敏(以上ピアノ)、青山優子(フルート) ほか  
曲目 ラフマニョフ:ピアノソナタ 第2番 変ロ短調 op.36(1931年版) プロコフィエフ:フルートソナタ 二長調 op.94  
カバルススキー:ソナチネ 第1番 チャイコフスキー(ラフマニョフ編):「くるみ割り人形」より ムソルグスキー:「展覧会の絵」 ほか



# Essay de say エッセイでっせ

2023年度「エッセイでっせ」(全6回)は、各地で開催されるユニークなホールの取り組みについてご紹介します。

## B→C(ビートゥーシー|バッハからコンテンポラリーへ)の魅力



東京オペラシティ リサイタルホールで、年に10回開催されている「B→C(ビートゥーシー|バッハからコンテンポラリーへ)」というリサイタルシリーズをご存じですか？

東京オペラシティ文化財団が主催するこのシリーズは、1998年4月よりスタートした、実力ある若手日本人演奏家によるソロリサイタルで、これまで過去25年間で250名以上が出演しています。

### B→C(ビートゥーシー)とは何か？

才能豊かな日本人の若手演奏家が、「B」=Bachの作品と「C」=Contemporary(現代作品)を必ずプログラムに入れた上で、自由にプログラムを組み立てていくリサイタルシリーズです。各演奏家が工夫を凝らし練り上げるプログラムは意外性や独自性が発揮され、これまで250通りのB→Cが生まれました。若手演奏家の登竜門と言われることもあれば、既に大活躍しているソリストの新たな強みが広がる挑戦の機会になったりと、一期一会の真剣勝負の演奏は多くの聴衆から好評をいただいています。

### B→Cに登場する楽器も千差万別。

まず、J.S.バッハが必須ですから、オリジナル作品があるヴァイオリンやピアノ(チェンバロ)、フルートや声楽の回では、その若手演奏家がバッハをどのように解釈し演奏するのか、お客様がこれまで聴いてきた演奏と聴き比べることも楽しみの一つです。更にユニークなのは、J.S.バッハがオリジナル作品を書かなかった楽器の場合です。例えばチューバ、パーカッション、さらにはオカリナ、ケーナ、尺八、箏、三味線...などなど、通常では考えられな



B→C 会田莉凡ヴァイオリンリサイタル  
2022年10月18日 東京オペラシティリサイタルホール  
(C)大窪道治/提供:東京オペラシティ文化財団

いような楽器もB→Cに登場します。「バッハのこの作品を、この楽器でどうやって演奏するのだろうか？」と、チラシをただでその期待が膨らみます。尺八なら、五孔三節が基本的な構造ですから、竹に穴が5つしか開いていません。尺八で、J.S.バッハのフルートのためのパルティータを高い水準で演奏しようと思ったら、相当なテクニックを要することは容易に想像できるでしょう。そこに新しい発見があるのです。時には、カルテットやトリオなどもあり、登場する楽器や編成にもバラエティ豊かな楽しさがあります。

現代作品については、1970年以降の作品を対象としています。現代といっても2023年現在、すでに50年以上経っていますから、多くの作品が生まれています。前衛の雰囲気を持つものから、反復しながら変化していくミニマル・ミュージック、音そのものをコンピューターで解析して作曲されたスペクトル音楽、演奏された音をその場で加工していくライブ・エレクトロニクスの作品など、クラシック音楽という枠に留まらない、様々な音楽世界が広がります。また、世界初演の作品、つまりB→Cのために委嘱された作品も数多くあります。その際、作曲家が演奏家と楽器の可能性について一緒に追究しながら一つの作品を生み出すこともあります。聴衆の皆様はその貴重な世界初演の目撃者となるのです。

最後に、2009年度より東京以外の都市でもB→Cを年2回開催しています。これはB→Cを日本各地の聴衆に届けようという試みです。東京と同一プログラムで、これまで20都市で27公演開催しています。そのうち7公演は、皆様が愛するザ・フェニックスホールで開催されました。近い将来、またここでB→Cが聴けるかもしれません。その折には是非、若き音楽家たちの渾身の演奏をご堪能ください。お待ちしております。

(公益財団法人東京オペラシティ文化財団  
プロデューサー 澤橋淳)

### ■公演情報

B→C|2023年度これからのラインナップ

2023年	5/16 大西宇宙(バリトン)	10/3 亀居優太(クラリネット)	2024年	1/16 川口成彦(フォルテピアノ)
	6/13 田原綾子(ヴァイオリン)	11/7 中 恵菜(ヴィオラ)		2/13 薬師寺典子(ソプラノ)
	9/12 黒川侑(ヴァイオリン)	12/12 新野将之(パーカッション)		3/26 庄司雄大(ホルン)

※全て平日の火曜日

会場:東京オペラシティリサイタルホール 問い合わせ:東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999 <http://www.operacity.jp/concert/>

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2023年5月  
発行 あいおいニッセイ同和損保  
ザ・フェニックスホール  
編集 上田英司  
デザイン 松井桂三有限公司

